

2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義	講 師	小沢 恵美子	
授業概要	他者と適切に関わるには「その人のことを理解する」ことが重要となる。相手を理解するとはどういうことか、理解するためにはどのような知識が必要なのか等を授業を通して考えていく。			
授業目標	保育や教育の根幹となる「子どもを理解する」ことについて、理解して自分の言葉で説明できる。 保育者に求められるカウンセリングの考え方、知識を身につける。 実際の保育場面、相談場面を想定して、保育者の立場からの対応や支援を考える。			
到達目標1	保育者として必要な知識(子どもを理解する、カウンセリング、相談支援など)を理解して、理解した内容を他者に適切に説明できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業に関するリアクション・ペーパー(15点)、期末試験(35点)	
到達目標2	自分が保育者となった場合を想定して、子どもや保護者にどのように関わっていきたいかを授業内容をふまえて考える。その考えを他者が理解できる文章でまとめる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2回のレポート課題提出(25点×2回=50点)。レポート課題は豊岡短期大学のレポート設題①と設題②。短大へのレポート提出が必須です。	
授業方法	基本的には講義形式であるが、授業内に簡単なワークも取り入れる予定である。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、子どもの実態に応じた発達や学びの把握(第1章) 2 相談支援の基本について(第2章) 3 子どもを理解する視点－環境－(第3章) 4 子どもを理解する方法－発達検査－(第5章) 5 豊岡短期大学レポート課題①作成 6 子どもを理解する方法－情報共有について－(第7章) 7 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド(第9章)、保育カウンセリングについて(第10章) 8 相談支援と周囲との連携(第14章) 9 豊岡短期大学レポート課題②作成 10 【オンライン授業】相談支援の実際－不登校・不登園、いじめ、児童虐待－(第13章) 11 カウンセリングのプロセス(第11章) 12 【オンライン授業】教育相談の実際－発達障害について－(第12章) 13 自己理解の技法(第8章)、豊岡短期大学試験対策(1) 14 アサーション・トレーニング、豊岡短期大学試験対策(2) 15 全体のまとめ、ふりかえり 			
必須テキスト	『こどもの理解と相談支援』稲田達也他著、豊岡短期大学(2021年)			
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	15%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	20%

2026年度 講義要綱

科 目	必修 講義		講 師	土屋 多恵子
授業概要	子育てに関わる社会環境の変化について理解するとともに、子育て支援の必要性について学ぶ。子どもや保護者を支えるために、保育者として何が求められるのかについて学び、保育実践力を高める。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	保育の専門性を基盤とした子育て支援について理解し、保育者と子ども・保護者をつなぐツールや視覚的なアプローチを作成することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する課題を行い、提出回数・内容で評価(50点)	
到達目標2	子育ての多様なニーズについて理解し、受容、共感をもとに子育て支援の必要性について具体的に説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(50点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義と並行して、事例検討、子育て支援へのアプローチを具体的に行い、実践力を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション「子育て支援とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの保育とともに行う保護者支援 3 おたより・ドキュメンテーションを活用した子育て支援 4 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 5 子ども・保護者が関わる場や機会 6 子ども及び保護者の状況・実態の把握 7 連絡帳を通した子育て支援 8 職員間の連携・協働 9 社会資源の活用①自治体・関係機関や専門職との連携・協働 10 社会資源の活用②地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応・要保護児童の家庭に対する支援 14 まとめ・これからの子育て支援 15 学期末試験			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を習得する授業を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育実践演習 講義		講 師	石原 成
授業概要	保育現場に出た時に、子どもを保育する専門家とし技能を高めることを目標として、自身の興味あるテーマについて調べ、それをもとに自分の考えを明確に持ち発表を行う。発表をお互いに聞き合い、学び合い、保育現場に生かしていくようにする。			
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。			
到達目標1	興味のあるテーマについて、調べたり、分析したりして、自分の考えを持ち、保育に関する物事に主体的に関わり、わかりやすく発表できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題1:中間発表内容と提出(10点)+授業課題2:本発表内容と提出(20点)+発表と感想(20点)=50点	
到達目標2	今までの学習で身につけた学びをレポートすることにより、保育の理解へと発展させることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート下書きの内容と提出 (30点)+試験解答下書き内容と提出 (20点)=50点	
授業方法	自分が興味のあることについてICTや文献などを用いて調べる、個別指導、発表をしたり、他発表を聞き感想や疑問点をまとめる。			
授業計画	1 オリエンテーション～保育実践演習の進め方～ 2 自身の関心を明確にしテーマを設定する 3 設定したテーマの調査(1) 4 設定したテーマの調査(2) 5 レポート解説と作成 設定したテーマの調査(3) 6 レポート作成と・下書き提出 中間発表資料作成(1)とテーマの調査 7 中間発表資料作成(2) 8 中間発表 9 試験問題解説・試験解答作成・中間発表振り返りと本発表スライド作成 10 (オンライン)試験解答作成・提出 本発表スライド作成 11 本発表スライド作成・発表準備 12 (オンライン)本発表スライド作成及び発表準備・試験勉強 13 短大試験 14 発表(1) 15 発表(2)			
必須テキスト	短大配本テキスト「保育・教職実践演習」			
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、長年、幼稚園教諭、主任として勤務。現在、チャイルド社「保育絵本チャイルドブック～わくわく活用ガイド～」作成に携わる。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	20%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	20%

2026年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び 選択必修 講義	講 師	杉川 としひろ	
授業概要	本授業では、保育現場で行われるあそびうた(手遊び・ふれあい遊び・リズム遊びなど)を実際に体験しながら、遊びの展開方法や指導のポイントについて学ぶ。また、遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について理解するとともに、遊びを構想し実践する活動を通して、保育者として必要な表現力・共感力・即興力を養う。 さらに、子どもと共に遊びを創造する視点を身につけ、「表現とは何か」を考え、保育実践へとつなげることを目的とする。			
授業目標	保育の基本である「遊び」の意義を理解し、特にあそびうたを中心に実践力を養う。 子どもたちの気持ちや発達段階に応じた適切な選曲と、場の盛り上げ方、アレンジ方法を習得する。			
到達目標1	子どもの発達段階や興味関心に合わせた「あそびうた」を、適切な声のトーン、表情、身体動作を用いて実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み態度50点	
到達目標2	子どもたちとコミュニケーションを取りながら歌詞や動きを柔軟にアレンジし、一緒に遊びを展開することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み態度30点 リアクションペーパー20点	
授業方法	実技・グループワークを中心に授業を展開。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・遊びの意義:あそびうたを体験。なぜ保育に「遊び」が必要なのか？ 2 乳児の遊び(0・1・2歳児):0・1・2歳児を対象とした身体接触あそび。 3 遊びのアレンジと創作:既存の遊び歌を、対象年齢や現場の状況に合わせてアレンジするワークショップ。「表現」とは何か？ 4 ペープサートを使ったあそびうた①:あそびうたを題材にした、オリジナルのペープサートを作成 5 ペープサートを使ったあそびうた②:4回目で作成したペープサートを使って、あそびうたを実演 6 遊びの創作①:既存の歌の歌詞をアレンジしたり、オリジナルの歌を作るワークショップ 7 遊びの創作②:6回目で作った歌を実演し、それぞれの魅力とアレンジについて考察 8 わらべうた基礎編(乳児・個別):日本の伝統的な音階とリズム。小集団・個別遊び 9 わらべうた応用編(幼児・集団):ルールのある集団遊び 10 遊びの観察と記録(オンライン):現場の遊び動画を視聴。子どもの反応から「何が育っているか」を言語化 11 集団で楽しむ歌遊び:円になって遊ぶ「かごめかごめ」「はないちもんめ」、鬼ごっこ系などルールのある遊び 12 模擬保育の指導案作成(オンライン):実技演習(13・14回)に向けた計画立案。ねらい、言葉掛け、配慮事項の整理。 13 模擬保育演習①:学生同士で保育者役・子ども役に分かれ、計画に基づいた実践 14 模擬保育演習②:実践の続きと、相互評価・振り返りによる改善案の検討 15 総括・実技確認:自分の一番得意な「持ちネタ」としてのあそびうた披露と、1年間の学びのまとめ 			
必須テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布。			
参考文献	授業中に適宜紹介。			
担当教員の 専門分野等	保育士としての現場で働きながらオリジナルのあそびうた作りを始め、退職後あそびうた作家として20年以上活動。全国の保育園・幼稚園や子育て支援事業等でのあそびうた公演、保育士向けの研修会を行なっている。2026年4月より認可保育園の副園長に就任。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30%	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 講義	講 師	大野 康子	
授業概要	小児期における「発達」と「食行動」を学ぶ。子どもが「楽しく食べる」体験を通して食への関心を育み、小児期の食の目標である「食を営む力」の基礎を培う為、食育を実践する知識や技能を身につける。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の食の目標「楽しく食べる子どもに」を理解し、保育者として望ましい声かけや行動を学ぶ。 ・グループでの調理実習を協力して行い、乳幼児期の食事形態に適した支援方法を習得する。 ・乳幼児を対象とした様々な食育活動を知り実践できる技能を身につける。 			
到達目標1	調理実習を通して子どもの発達・発育に即した食事形態を知り、保育者として適切な食事介助を実行できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習への取り組み度(30点) ・リアクションペーパーの提出回数・内容で評価(20点)→合計50点 	
到達目標2	保育所において、求められている食育とは何か、乳幼児期から豊かな食の体験が積み重なるような食育活動を実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み度(30点) ・グループ発表の内容で評価(20点)→合計50点 	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・使用テキストや文献を使用した講義 ・調理室での調理実習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「子どもの食と栄養実習」～オリエンテーション／目標・持ち物・評価・諸注意～ 2 乳幼児の成長と発達（小児期の栄養不足と肥満） 3 乳児期の栄養（母乳と人工乳） 4 乳児期栄養実習（育児用ミルク飲み比べ） 5 離乳期の栄養（咀嚼・嚥下） 6 離乳食栄養実習（ベビーフード試食） 7 幼児期の栄養（ガイドラインに基づく食の体験） 8 幼児食実習（味噌玉つくりと味噌汁） 9 偏食①（新奇性食物恐怖と経験嫌悪） 10 偏食②（障がいを持つ子どもと偏食） 11 食物アレルギー（保育所の対応） 12 食育の捉え方(食育実践に向けて) 13 乳幼児対象の食育活動計画（グループ決めと実践準備） 14 食育実践準備(グループ活動) 15 食育実践グループ発表(記述試験なし) 			
必須テキスト	NEW ERA 子どもの食生活-保育実践にいかす栄養・食育- 上田玲子編著 ななみ書房			
参考文献	楽しく食べる子どもに/食からはじまる健やかガイド厚生労働省2004 『保育所における食事の提供ガイドライン』厚生労働省2012			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」に該当。 ・幼児対象の食育activity講師の他、0. 1. 2歳の保育所に現役保育者として携わり子どもの食の姿について多くの事例を持つ。 ・IFNetA認定/子ども摂食エキスパートアドバイザーとして偏食に悩む養育者の支援活動を行っている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育教材研究 選択必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう	
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。			
授業目標	子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。			
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)*社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更			
授業計画	1 3/27 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、カラーポリ袋を使った巨大制作(A71) 2 4/3 リサイクルペーパーを使った壁面制作(A71) 3 4/10 お面づくり:画用紙 4 4/17 衣装づくり:ポリ袋 5 4.24 紙の加工:はらぺこあおむし 6 5/8 素材研究:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整えるまたは、アルミホイル:粘土のように自由な形を作る 7 5/18 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔 8 5/22 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作 9 5/29 フィンガーペイントによる絵画制作 10 6/5 オンライン週 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等 11 6/12 絵本作家エリック・カールの技法を学び、実践 (6/15~26まで幼稚園実習期間) 12 7/3 オンライン週 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等 13 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵 14 レッジョの実践②:光を用いた作品制作 15 まとめ			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	なかむらしんいちろう:絵本作家、イラストレーター			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅢ 選択 講義	講 師	遠藤 祐太郎	
授業概要	就職に向けて自己理解を深め、対人力・表現力を高めるとともに就職活動に必要な自己PRや面接の伝手方について実践的に学ぶ。保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、自己成長や問題解決力を高める。 ・保育者としてのコミュニケーション能力を身につけ、同僚性を高める。 			
到達目標1	自己洞察力を高め、学習や就職の活動に活かすことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題提出	
到達目標2	保育者として必要なコミュニケーション能力を駆使し、同僚性を高めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの貢献度	
授業方法	コミュニケーション能力を高めるための、レクリエーション遊び、自分の目標設定と振り返り、ロールプレイ、課題解決学習、校外学習、行事企画、発表、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 面談/オリエンテーション・自己洞察力を高める 価値観ワーク			
	2 面談/リフレーミングゲーム			
	3 面談/自己分析ゲーム			
	4 面談/アンガーマネジメント			
	5 面談/人との関わり方			
	6 多様性のワーク			
	7 コミュニケーションゲーム			
	8 社会人基礎力研修			
	9 振り返り			
	10 クラス活動			
	11 クラス活動			
	12 クラス活動			
	13 クラス活動			
	14 クラス活動			
	15 クラス活動			
	16 笑顔研修・メイク講座			
	17 身体表現活動			
	18 ドキュメンテーション講座			
	19 保護者対応・電話対応			
	20 ICT体験導入			
	21 ICTで記録を書いてみよう			
	22 チームビルディング			
	23 保育士資格説明会			
	24 クラス活動			
	25 クラス活動			
	26 クラス活動			
	27 クラス活動			
	28 クラス活動			
	29 クラス活動			
	30 クラス活動			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	遠藤 祐太郎:クラス担任、実務経験のある教員			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育カウンセリング概論		選択 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	子供の心身の発達について学び、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、それに基づく適切な関わり方を考える。保育実践において、信頼関係を築いたうえで、子供と保護者に寄り添う支援をするために必要なカウンセリングの基礎的知識や技能を身につける。				
授業目標	1. 子供の心身の発達についての知識と理解を基盤として、保育者としての適切な関わり方を考える。 2. 子供と保護者を支援するために必要なカウンセリングの基礎的知識や技能を習得する。 3. 子供を理解するための具体的な方法や支援の実際を理解する。				
到達目標1	子供の心身の発達についての知識と理解に基づき、保育者としての適切な援助や態度を具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、レポート・リアクションペーパー(40点)→合計50点		
到達目標2	保育カウンセリングに求められる基礎的知識や技能を身につけ、実技に活かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み度(15点)、授業内のグループ討論や実技に関する振り返り(15点)、まとめレポート(20点)→合計50点		
授業方法	保育者に求められる適切な支援について、グループワーク・ディスカッション等の体験や、映像視聴・事例検討などから実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価など)・カウンセリングとは 2 カウンセリングマインド・現代の子供を取り巻く環境の問題 3 保育者の基本的姿勢と子供理解(1)(子供との信頼関係の構築) 4 保育者の基本的姿勢と子供理解(2)(観察法) 5 心理教育的アセスメント(1)(観察法・面接法・質問紙調査法・検査法・作品法) 6 心理教育的アセスメント(2)(交流分析) 7 カウンセリングの理論と方法(1)(言語的技法) 8 カウンセリングの理論と方法(2)(非言語的技法) 9 教育方法の新たな展開(ソーシャルスキルトレーニング) 10 保育カウンセリングの実際(1)(けんかやいざこざ) 11 保育カウンセリングの実際(2)(保護者支援) 12 保育カウンセリングの実際(3)(発達障害のある子への支援①ADHDとSST) 13 保育カウンセリングの実際(4)(発達障害のある子への支援②ASD・専門機関との連携) 14 保育カウンセリングの実際(5)(保護者との面接の演習) 15 まとめ(グループワークによる保育カンファレンス→レポート)				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	大野精一[編著]長谷部比呂美・橋本千鶴[著]「教師・保育者のための教育相談」(萌文書林)2017年 他、授業で適宜紹介				
担当教員の 専門分野等	小学校教員として長く勤務。大学院でカウンセリングを専攻。日本カウンセリング学会認定カウンセラー(カウンセリング心理士)。大学等で、教育相談(カウンセリング)・幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %	

2026年度 講義要綱

科 目	教育実習指導Ⅱ 選択 講義	講 師	佐藤 博美	
授業概要	前回の実習の学びをもとに幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学ぶ。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な教材研究を行い、部分実習指導計画案の立案の仕方を理解する。 ・幼児の実態を捉え安全面と環境構成に留意した全日指導計画案の立案の仕方を理解する。 			
到達目標1	・実習での観察や記録の仕方を理解し、幼児の実態を捉えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題内容(30点)+課題提出期限の厳守(20点)=50点	
到達目標2	・立案した指導計画を実践するための教材研究や教師の援助を考慮することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	最終試験「全日指導案記入」50点	
授業方法	指導計画の立案、実践、振り返りを行う。またテキストや視聴覚教材を用いて環境構成、ねらいと教師の援助の読み取り等を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習Ⅱのねらいと内容の理解、実習後半への見通し 2 教育実習目標の設定、実習関係必要書類の確認 3 前半実習簿振り返りから指導案立案(1) 4 前半実習簿振り返りから指導案立案(2) 5 指導計画案立案 主活動 ゲーム① 6 指導計画案立案 主活動 ゲーム② 7 指導計画案 各項目確認 幼児の実態・教師の援助・実習生の気づき 8 全日指導計画案(1)一日の前半 9 全日指導計画案(2)一日の後半 10 試験「全日実習指導案」 11 実習直前最終確認 12 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(1) 13 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(2) 14 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(3) 15 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(4) 			
必須テキスト				
参考文献	幼稚園教育要領 豊岡短大テキスト			
担当教員の 専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科 目	手話 選択 講義	講 師	加藤 陽子	
授業概要	手話を学ぶ事によって、手話の出来る保育士の養成並びにコミュニケーション能力の向上、又聴覚障害者に対する理解と対応の仕方を学ぶ			
授業目標	手話を覚え、相手に伝える楽しさ、喜びを感じ、コミュニケーション力を身に付け、又聴覚障害者の生活や福祉制度・知識を学ぶ。			
到達目標1	手話を通して聴覚障害者ならびに福祉制度や知識を理解する。手話に慣れ親しむ。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みの評価30点	
到達目標2	保育士になったときに覚えた手話で聴覚障害者と会話できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(技術と知識問題)70点	
授業方法	手話を学ぶ為にまず単語を覚え自己紹介が出来る様にして、その覚えた手話を使って聴覚障害者の方と楽しく交流学习をする。			
授業計画	1 〈技術〉「聞こえない」とは、また手話とは 身振りとの関連性 2 〈技術〉自己紹介／〈理論〉手話の基礎知識 I 3 〈技術〉疑問文5W1H 名前・時の表現／〈理論〉手話の基礎知識 II 4 〈技術〉疑問文5W1H 名前・時の表現／〈理論〉手話の基礎知識 II 5 〈技術〉5W1H 住所／〈理論〉聴覚障害者の基礎知識 II 身体障害者補助犬について 6 〈技術〉聴覚障害者との交流学习(1)／〈理論〉聴覚障害者の生活 I 7 〈技術〉疑問文5W1H 仕事・アルバイト先／〈理論〉聴覚障害者の生活 II 8 〈技術〉疑問文5W1H 保育園で／〈理論〉福祉制度 I 9 〈技術〉会話練習(1)／〈理論〉福祉制度 II 10 〈技術〉会話練習(2) 11 〈技術〉自己紹介のまとめ(1) 12 〈技術〉自己紹介のまとめ(2) 13 試験 14 ふりかえり、まとめ 15 聴覚障害者との交流学习(2)			
必須テキスト	東京都聴覚障害者連盟『手にことばを 初級用』			
参考文献	適宜プリントにして配布します。			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。長年にわたって(20年以上)手話通訳並びに自治体やカルチャーセンター依頼による手話指導の多くの経験あり。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20%
	社会人としての基本	5%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	25%

2026年度 講義要綱

科 目	リズム・ダンスあそび	選択 講義	講 師	笠井 千裕
授業概要	実技を通して身体を動かす楽しさを学びながら、保育現場での引き出しを増やす。他者と関わる力(コミュニケーション能力)を伸ばす。			
授業目標	リズムダンス遊びの楽しさを体感し、全身表現に対する苦手意識の軽減へ繋げる。幼児期に必要なプログラムを楽しく取り入れる実践力を習得する。			
到達目標1	リズムに慣れる。 恥ずかしがらず体を大きく使って表現出来る。 目の前の子どもをイメージして取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への取組み度(20点) ●笑顔での表現(10点) ●課題発表(20点) 	
到達目標2	幼児の為のダンス(月齢も考えながら)を作ることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児期に必要な動きの取入れ方(20点) ●子どもへの伝え方(15点) ●自分のアイディアを出し、仲間と意見交換できる(15点) 	
授業方法	保育現場をイメージし、ポイントを伝えながら基本の動きから応用までを実践。各自動画撮影やメモを利用し次の授業に生かす。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス① 3 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス② 4 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス③ 5 幼児向けダンス④ 復習しながら子ども達への伝え方を考える 6 自分が教える立場になって実践してみる 7 創作ダンスサンプル① 8 創作ダンスサンプル② 9 創作ダンスサンプル③ 10 復習 自分が教える立場になって実践してみる 11 グループ創作① / グループ決め。テーマを決め曲を選ぶ 12 グループ創作② / 振付・練習 13 グループ創作③ / 振付・練習 14 グループ創作④ / 運動会発表など用に構成をつける 15 各グループごとに課題発表 			
必須テキスト	特に指定無し			
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します			
担当教員の 専門分野等	ダンスインストラクター 振付師 ダンスコミュニケーション教育			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科 目	ピアノ I 選択 講義	講 師	浦 啓子、佐藤 季里、杉橋 祥子	
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また教育実習でも使用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、現場で活用する生活の歌・季節の歌から最低2曲はコードネームによる簡易伴奏を行うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	曲ごとのねらいや、子どもたちの年齢ごとの発達や視点を理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。また教育実習併修者は、実習園からの課題がある場合には最優先に演習していく。			
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』 ・『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科 目	ピアノⅡ 選択 講義	講 師	杉橋 祥子	
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また採用試験や職場で活用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、現場で活用する生活の歌・季節の歌からハ長調以外の曲(ト長調、ヘ長調等)のコードネームによる簡易伴奏を行うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	曲ごとのねらいや、子どもたちの年齢ごとの発達や視点を理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌い出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。自分に関わる現場で、どんな曲を、どのような場面で、どのようなねらいを持って活用していくかを明確にしながら練習に取り組んでいく。			
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』 ・『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科 目	造形と絵画 選択 講義	講 師	目黒 祥元	
授業概要	1,2学年で学んだ造形技法を基に、幼児造形の枠を越えた造形技法や画材もあえて取り上げ、一課題にじっくり取り組む共同制作や絵画の実習をします。完成した作品は、提出していただき、壁面装飾などにも使用します。			
授業目標	課題の構想と準備から完成までの取り組みを通じて、造形と絵画の応用力を養いたい。			
到達目標1	課題制作にあたり、完成までのプロセスと時間配分を含めて主体的に計画を立てられるようになる。計画通り時間配分などを見極めて制作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の進捗状況を主体的に把握し取り組んでいるか(30点) 期限までに完成させて提出(20点)	
到達目標2	初めて接した画材においても、今までに学んだ造形技法を応用し、画材の特性を見極めて制作に活かすことができる。作品を完成させる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	適切な画材の使いこなし(準備、使用、始末)ができてい る。(35点) 作品の出来栄え(15点)	
授業方法	15回を通して全て実習の授業です。グループ分けをして共同制作にも取り組みます。作品は全て提出または壁面装飾などに使用します。授業外での制作は原則認めていません。状況に応じて、適宜カリキュラムの変更を行う場合があります。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方と作品提出のルールや共同制作時のグループ分け。 2 ごっこ遊びのお店を描く。提出作品。 3 紙工作。提出作品。 4 テーマと制作のスケジュール、分担方法や必要な画材などを決める。 5 グループごとに決めた計画を基に制作を開始。 6 グループごとに決めた計画を基に制作。 7 グループごとに決めた計画を基に制作。 8 グループごとに決めた計画を基に制作。 9 ごっこ遊びの店制作。紙粘土色付け。 10 出来上がったパーツを組み上げて仕上げる。壁面に展示する。 11 粒子のある絵の具を使った実習。提出作品。 12 粒子のある絵の具を使った実習。提出作品。 13 粒子のある絵の具を使った実習。提出作品。 14 粒子のある絵の具を使った実習。提出作品。 15 粒子のある絵の具を使った実習。提出作品。 			
必須テキスト	指定は無い。			
参考文献	幼児造形の枠にとどまらず、造形美術全般に関心を持ってもらいたい。			
担当教員の 専門分野等	美術家。本校において資格試験の実技指導にあっていた。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ 選択必修 講義	講 師	加莉 則子	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・ワークシート・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・課題を期日内にきちんと提出することができる。 ・責任実習全日指導計画を書けるようになる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験「責任実習全日指導計画」(30点)、課題提出(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・責任実習、部分実習のために保育教材の制作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を責任を持って行うことが出来る。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育の準備・発表(30点)、模擬保育指導案(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 主活動の指導計画 保育実習ⅠとⅡの違いを知る 3 指導計画について 4 個人票の下書き 5 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 6 模擬保育に向けて②(教材準備) 7 保育現場からのメッセージ 8 模擬保育に向けて③(導入の意味) 9 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 10 試験と模擬保育の発表について確認 11 試験「責任実習全日指導計画」 12 模擬保育実践1 13 模擬保育実践2 14 模擬保育実践3 15 G2・G3合同 実習わくわくタイム 			
必須テキスト	保育実習指導Ⅰaで使用した『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する。共著に「0～6歳児 「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %